

「絵本の力」

高橋 廣視

柳田さん、こんにちは。私は少し前に、幼い頃に読んだことのある絵本に再会しました。その絵本は「おやつがほーい、どっさりほい」という絵本です。再会のきっかけは娘が幼稚園で借りてきたことでした。その絵本を見るまでは、その絵本の存在をすっかり忘れていました。でも、その絵本の表紙とタイトルを見て、すぐに幼い頃の自分の記憶が次から次へとあふれてきました。絵本の中に出てくるキツネと一緒にドキドキ、ワクワクしたことやがっかりしたこと、どろんこでできたおやつを真似して、砂場で一生懸命に作ってみた

ことを思い出しました。幼い頃の自分の気持ちを思い出しながら、娘に読み聞かせをしている時間はとてもあたたかい気持ちになり自然と笑顔になりました。

大人になると幼い頃の記憶もだんだんと薄れていき忘れてしまっていることもたくさんあると思います。それでも、たった一冊の絵本で忘れていた幼い頃感じた気持ちや、絵本の内容に影響されて、行動を起こしてみたことなどを思い出させてくれる絵本の力はすごいと思いました。

私は子供の頃、特に読み聞かせをしてもらったことはあまりありませんでした。でも絵が好きだったこともあり、絵本の内容ではなく絵を見て、「この絵本、見たことある。」という程度で憶えている絵本などがありました。きっと「おやつがほ

「いい、どっさりはい」という絵本は、私が文字を覚え、自分で読めるようになった頃に出会ったから、絵もお話の内容も憶えていたのかもしれない。そう思うともっと文字を読めない小さい頃からの読み聞かせなどは、とても有意義なことだと改めて思いました。もっと小さい頃からたくさん絵本に出会うことができれば、いろいろな感情を体験でき、人としての大切な心の形成にも役立つのではないかと思いました。大人になって、絵本を読むことがなくなっていた時期もあったけど、子供ができたことで、再び、絵本と出会えることができて良かったと思っています。子供にも読み聞かせをしているいろいろな感情や感性を育て、心、豊かに成長していつてほしいです。

絵本はとてもアナログ的なものかもしれないけ

れど、私には、過去の記憶の世界へつれていったり、不思議な別世界へつれていったり、昔も感じたことのある気持ち、新たに出会う感情を生みだしてくれるタイムマシーンのような、人に優しいハイテクなものだと思っています。

柳田さんは、絵本でどんな世界へ行ってみましたか？